

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970300152		
法人名	社会福祉法人ふるさと自然村		
事業所名	グループホーム安芸		
所在地	高知県安芸市川北甲1812-15		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 26 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食材は地元のショッピングセンターを利用し季節にあった食材を提供している。行事では一年を通して昔からの行事を大切にし昼食会を開催している。元旦には毎年皿鉢料理を提供し新年を迎えている。テラスを活用し散歩等をし、他者との交流や外気に触れる時間をもっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3970300152-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 11 月 13 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清流安芸川の河口付近の住宅地に位置し、テラスからは青い空と太平洋が望め、山並みを背景に住宅地の様子が目に飛び込んでくる。大きくスペースをとった海に面した中庭は、2つのグループホームの共有スペースであり、散歩や、時にはティータイム、ランチなどが催され、コロナ禍で外出制限のある中でも体力維持やリフレッシュが可能となっている。ケアハウスやデイサービスが併設され、災害訓練、コロナの前までは運動会が合同で行われていた。1階の交流スペースは、コロナの前までは、地域住民やグループホーム、ケアハウスの入居者・家族、デイサービスの利用者が集って、オレンジカフェ「花どけい」が隔月で開催されていた。感染対策の緩和により、来年からグループホーム入居者対象に再開予定である。地元の食材、季節のものを食べてほしいとの職員の願いから、業者からの仕入れでなく、地元のスーパーにあえて買い物に行く楽しみを、そして利用者も豆の筋を取るなど下処理に参加、職員が手作りをしている。桜、あじさい、ひまわり、コスモスなどを見に出掛ける。入居者の体力維持のために、ゲームや工作のみならず、地元歌手の得意なけん玉を使った体操、廊下に湿った新聞紙を撒き、それを箒で掃き集める掃除が圧巻である。利用者が満足する企画の施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームの見える場所に提示して意識付けている	玄関近く、事務室に理念を掲示してあり新入職員には最初の研修で覚えてもらい、月一回のミーティング時に確認している。	理念を職員間で再度確認する場を設けてみては如何でしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症以降交流ができていない	コロナ以前は認知症カフェやボランティアさんの作業などレクリエーションの催し、また、安芸市のイベントへ参加し、そこで知り合いにも会い楽しんでいたが、全て中断していた。五類へ移行したので同じ建物の他施設との合同イベントをまず小さな規模でのカフェを再開しようと計画中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	カフェや地域のボランティアの方々との交流で理解していたが現在、交流等できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で現状や活動を報告し次につなげる為、意見をいただいて活かしている	市の介護課、包括センター長、地域代表、民生委員、家族代表をを呼んで対面で行っている。家族代表は人が変わるにより、同じ意見が毎回出ることもあるので、6回同じ方に来ていただいている。	マンネリ化を防ぐために新しいメンバーを増やしてみても如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば相談し協力を得ている	管理者とケアマネージャーが窓口で、運営推進会議の報告や案内を持って行ったり、事故報告をしたりしている。事故報告には施設長が行くこともある。色々な立場の職員が直接顔を合わせておくことにより、担当者のいない緊急時にも円滑に対応できるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な会を開催し身体拘束をしないケアを理解しながら取り組んでいる	身体拘束委員会が三カ月に一回あり、他にも研修をしていて、施設内の事例以外に全国の実例も確認している。スピーチロックの言葉の確認も行っている。管理者は「待つて」と言う前に自然に身体が動くようになっていく。利用者がお互いを助けようとするため、怪我をしないように注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に会を開催し意識付けて防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	話す機会を持ち説明し理解を得ながら協力出来るよう話をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際し説明や見学をして頂き理解の上で入居契約を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時等で意見を聞き反映させている	面会は感染対策をした上で居室やロビーで自由にしていて、その時や家族対応の病院の受診時に話を聞いている。家族へは、時におやつがあれば持って来て頂いている。日々の様子やイベントの様子をまとめた「ホーム便り」を不定期で発行して送付しており、写真は一人ひとり違うものを使用し、家族へ様子が良く伝わるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の中での意見やミーティング時に話をして管理者会などで発信している	ミーティング時に発言していただき管理者へ直接伝えることもある。家族都合での勤務の変更や休暇の希望などの希望があれば配慮している。掃除機や掛け時計など備品が壊れた時には、要望により速やかに交換している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を把握し年2回評価をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が開催する介護研修への参加や内部研修や伝達研修を行い、学習の機会が確保されている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修も開催されるので声をかけて参加を促している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報を確認し本人の思いに近づけるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話す機会を多くもち思いを聞きわかりやすく説明しながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が何を希望しているのかを見極め、出来ることを伝え必要な事から対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすことを常に意識しながら仲間としての関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係に注意しながら、その関係が切れる事のないよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くからの友人や地域との関係が絶たれることのないよう支援している	デイサービスに通っていた人は入居後も通うこともある。行きつけの病院や美容院に通い続ける人もいる。事務所に職員がいると、話しかけにくる利用者がいて、別の利用者は毎朝同じ人を起こしに行っている。ホームの中に馴染みの社会ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声をかけあって個々の関係に配慮しながら支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後出先で会った際は話をしたり近況を聞いて相談があればその支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握に努め困難な場合はその都度検討し対応している	入居時にケアプランを作る時や、更新する時に本人にもその時に聞いて確認している。家族にはそれ以外にも面会時や通院時に確認している。あまり話さない人からは普段の言葉かけを増やしたり、夜勤時に話しかけたりいる。家族からの要望とを本人の希望が違うことがあるが、内容をよく聞き、バランスを取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供などを参考に個々の暮らしを把握している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態や状況に目を向け1日の過ごし方の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状を踏まえ家族の思いを聞きカンファレンスを行い可能な計画を作成している	本人の活動や発言の記録を毎日記録して、計画通りできているか、満足しているかを確認している。その結果を1カ月毎にまとめ、半年毎のケアプランに反映させている。本人の意向と家族の希望が違う時にはきちんと伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日常の記録をし情報を共有しながら実施し計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今の現状を把握し出来ることを考え工夫を重ね支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後は安全な暮らしの中で社会資源を活用し暮らしを楽しんでいけるよう努力したい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を入居時に聞きかかりつけ医との関係を断続して受診できるよう支援をしている	利用者はかかりつけ医に通っている。協力医の往診はないので家族に連れて行っていただくが、職員が連れて行くことも多い。歯科も通院している。受診記録はタブレットに記録して職員同士で情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護体制がなく日常の関わりの中で異常の早期発見に努め、医療に受診できるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院との情報交換に努め早期に退院できるよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の説明や状態にあわせてその都度家族と話し合いをし共有しながら支援していく	看取りは実施していない。以前は実施していたが、協力医が変わったこと、常勤の看護師がいなくなったことで実施できなくなった。重篤化した際には医療機関と連携している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の開催を重ね発生時に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練に職員も参加し身につけると共に協力体制を確認している	火災、水害、地震に対して年間に3～4回、毎回建物内他施設と合同で実施している。地域の避難場所にも指定されているため、コロナ以前は防災祭りを開催して地域住民にも来ていただいていたが、現在は中断している。備蓄は三日分程度あり、利用者に食べてもらったこともある。安芸市の災害訓練にも参加し、ダンボールベッドの組立も体験した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活を送る中でも、個人のプライバシーに配慮し尊厳を傷つけないように努めている	職員同士での排泄チェックの時には名前を出さなかったり、近くで話しかけたり、他の人に気付かれないように配慮している。失敗した時の誘導時にはその人の後ろに立ち、他の人に見えないようにしたり、着替えを持って行く時に目立たないようにしたりしている。呼称は同姓の人が多いので下の名前にさん付けが多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の場面が病状進行等によって少なくなっている。できるだけ声かけをしながら働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースでできるだけ過ごせるよう配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の思いにそって対応しながら支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる場面に参加して協力しながら片付けている	節句や敬老の日や誕生日にはお寿司や赤飯を出して喜ばれている。またその写真を撮って、ホーム便りに載せて家族に送って、好評である。職員手作りの羊羹などのおやつも人気であった。おやつは個人からの差し入れもよくいただき、待ち遠しい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事内容について状態に合わせて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施で口腔内の確認も出来ている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の合った排泄支援を実施している	排泄の失敗が増えて、受診や外出が難しかった利用者が、リハビリパンツなどの利用でスムーズに外出できるようになった。排泄チェックシートの活用により誘導のタイミングを把握でき、職員間でも共有できて、失敗させてしまうことが減った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認・水分や食事等で個々に合った対応をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ入浴してもらえるよう声掛けをし、個々の状態に合わせて実施している	週に2回～3回、特に受診の前日には入浴するようにしている。本人の希望により毎日入る人もいる。浴槽に入らない人にはお湯をかけてあげる。嫌がる人もいるが、先に入った利用者に「気持ちよかった」「あなたの番よ」などと声をかけて頂くと入ってもらえるようになった。「ライスパワー」を使い保湿にも気をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた時は自室で休んでもらったり状態に合わせて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や服用量等確認し症状の変化にも注意して支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る能力に応じて活動し気分転換となるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の制限もなく自由に戸外に出かけられる状況だが、通院以外での外出にとどまっている	コロナ過の間は外出ができなかったもので、駐車場の桜で花見を楽しんだ。バルコニーの庭で(で)蒸かし芋を食べ、ティータイムを楽しんだこともある。庭の花壇で草取りをしているので、次は何かきれいな花を(を)植えたいと考えている。外出が制限されていた間の運動に始めたオリジナルの体操が好評で続いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で持参している方については使えるよう支援していく		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけたい希望やかかってきた際は、家族と話ができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく過ごせる工夫や温度調整し気持ち良く過ごせる工夫をしている	リビングの壁に利用者(さんたち)と一緒に作った飾りを貼っている。職員と一緒に洗濯物を干したり、たたんだり、食器洗いを一緒にしたりしている。時には洗濯物の奪い合いもおきるほど皆さん積極的に手伝うことが多い。テレビも一緒に見ていて、相撲中継が人気で、場所中は夕食時間が取組後になるので、普段よりも遅く始まることになる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間と話が出来るよう配席を考え工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に過ごせるよう居室内の確認をしながら工夫をしている	居室に使い慣れた机や椅子などを持ち込む人や、位牌と遺影を持ってきている人がいる。テレビを持ち込んでいる人も多いが、日中はリビングで一緒に見ている。夜にはテレビを寝るまでつけていて、職員が毎晩消しに行っている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室前には本人がわかるよう置き物や絵などを飾ったり、大きな字でわかるよう貼り紙をしている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970300152		
法人名	社会福祉法人ふるさと自然村		
事業所名	グループホーム安芸		
所在地	高知県安芸市川北甲1812-15		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 26 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食材は地元のショッピングセンターを利用し季節にあった食材を提供している。行事では一年を通して昔からの行事を大切にし昼食会を開催している。元旦には毎年皿鉢料理を提供し新年を迎えている。テラスを活用し散歩等をし、他者との交流や外気に触れる時間をもっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3970300152-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 11 月 13 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清流安芸川の河口付近の住宅地に位置し、テラスからは青い空と太平洋が望め、山並みを背景に住宅地の様子が目に飛び込んでくる。大きくスペースをとった海に面した中庭は、2つのグループホームの共有スペースであり、散歩や、時にはティータイム、ランチなどが催され、コロナ禍で外出制限のある中でも体力維持やリフレッシュが可能となっている。ケアハウスやデイサービスが併設され、災害訓練、コロナの前までは運動会が合同で行われていた。1階の交流スペースは、コロナの前までは、地域住民やグループホーム、ケアハウスの入居者・家族、デイサービスの利用者が集って、オレンジカフェ「花どけい」が隔月で開催されていた。感染対策の緩和により、来年からグループホーム入居者対象に再開予定である。地元の食材、季節のものを食べてほしいとの職員の願いから、業者からの仕入れでなく、地元のスーパーにあえて買い物に行く楽しみを、そして利用者も豆の筋を取るなど下処理に参加、職員が手作りをしている。桜、あじさい、ひまわり、コスモスなどを見に出掛ける。入居者の体力維持のために、ゲームや工作のみならず、地元歌手の得意なけん玉を使った体操、廊下に湿った新聞紙を撒き、それを箒で掃き集める掃除が圧巻である。利用者が満足する企画の施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームの見える場所に提示して意識付けている	玄関近く、事務室に理念を掲示してあり新入職員には最初の研修で覚えてもらい、月一回のミーティング時に確認している。	理念を職員間で再度確認する場を設けてみては如何でしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症以降交流ができていない	コロナ以前は認知症カフェやボランティアさんの作業などレクリエーションの催し、また、安芸市のイベントへ参加し、そこで知り合いにも会い楽しんでしたが、全て中断していた。五類へ移行したので同じ建物の他施設との合同イベントをまず小さな規模でのカフェを再開しようと計画中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	カフェや地域のボランティアの方々との交流で理解していたが現在、交流等できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で現状や活動を報告し次につなげる為、意見をいただいて活かしている	市の介護課、包括センター長、地域代表、民生委員、家族代表をを呼んで対面で行っている。家族代表は人が変わるにより、同じ意見が毎回出ることもあるので、6回同じ方に来ていただいている。	マンネリ化を防ぐために新しいメンバーを増やしてみても如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば相談し協力を得ている	管理者とケアマネージャーが窓口で、運営推進会議の報告や案内を持って行ったり、事故報告をしたりしている。事故報告には施設長が行くこともある。色々な立場の職員が直接顔を合わせておくことにより、担当者のいない緊急時にも円滑に対応できるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な会を開催し身体拘束をしないケアを理解しながら取り組んでいる	身体拘束委員会が三カ月に一回あり、他にも研修をしていて、施設内の事例以外に全国の実例も確認している。スピーチロックの言葉の確認も行っている。管理者は「待つて」と言う前に自然に身体が動くようになってきている。利用者がお互いを助けようとすることもあるので、怪我をしないように注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に会を開催し意識付けて防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	話す機会を持ち説明し理解を得ながら協力出来るよう話をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際し説明や見学をして頂き理解の上で入居契約を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時等で意見を聞き反映させている	面会は感染対策をした上で居室やロビーで自由にしていて、その時や家族対応の病院の受診時に話を聞いている。家族へは、時におやつがあれば持って来て頂いている。日々の様子やイベントの様子をまとめた「ホーム便り」を不定期で発行して送付しており、写真は一人ひとり違うものを使用し、家族へ様子が良く伝わるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の中での意見やミーティング時に話をして管理者会などで発信している	ミーティング時に発言していただき管理者へ直接伝えることもある。家族都合での勤務の変更や休暇の希望などの希望があれば配慮している。掃除機や掛け時計など備品が壊れた時には、要望により速やかに交換している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を把握し年2回評価をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が開催する介護研修への参加や内部研修や伝達研修を行い、学習の機会が確保されている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修も開催されるので声をかけて参加を促している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に関係機関からの情報提供を得て、実際に本人に会って面談を行っている。サービス開始後は本人の要望が叶えられる介護計画を立てている。普段の会話や支援を行う中で信頼関係を深めていくようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時や入居時に聞き取りを行い、家族側の困りごとや要望を伺っている。家族と意見交換をしながらサービスの作成・支援を行い、同時に信頼関係を築いていくようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望等を把握し、他のサービスを含めて検討しながら、必要に応じたサービスを提供するように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に沿って共に過ごす我が家を目指し、利用者と職員が協働しながら暮らししていける関係を築くことに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には利用者の近況報告を行い、暮らしぶり等を情報共有している。ケアについても家族と相談しながら行い、共に支え合っていく関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理美容室がある利用者は家族が付き添い散髪に行っている。長年利用してきた同施設内のデイサービスに顔を出し顔馴染みの利用者と会話を楽しんだりしている	デイサービスに通っていた人は入居後も通うこともある。行きつけの病院や美容院に通い続ける人もいる。事務所に職員がいると、話しかけにくる利用者がいて、別の利用者は毎朝同じ人を起こしに行っている。ホームの中に馴染みの社会ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士を同じテーブルにしたり、互いの顔が見える配置を考えている。又、作業等においてもベースが同じ利用者同士で行うなどの配慮に努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本院退居後に家族と面会した際には気軽に話をしている。他施設への入居後の様子を伺い、相談があれば応じている。家族からも関わりがあった職員を気遣う言葉がある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員との会話、利用者同士との会話の中で希望や内容が違っているときもあるが、その時の行動や発音などを踏まえた上で、総合的に判断している。聞き取りが困難な場合は出来る限り本人本位に近づけるよう努めている	入居時にケアプランを作る時や、更新する時に本人にもその時に聞いて確認している。家族にはそれ以外にも面会時や通院時に確認している。あまり話さない人からは普段の言葉かけを増やしたり、夜勤時に話しかけたりいる。家族からの要望とを本人の希望が違うことがあるが、内容をよく聞き、バランスを取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供、本人・家族より情報を得ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態や出来ること、出来ないことを見極めて把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合いの場に本人が立ち会うことはほとんどなく、家族と計画作成者が話し合うことが主だった。家族との話し合いの内容を利用者の希望をカンファレンスの場で職員と検討し介護計画を作成している	本人の活動や発言の記録を毎日記録して、計画通りできているか、満足しているかを確認している。その結果を1カ月毎にまとめ、半年毎のケアプランに反映させている。本人の意向と家族の希望が違う時にはきちんと伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実施内容や状況を記録し、カンファレンスの場で情報を共有し効果があったのか見直しが必要なのかを見極めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今の現状を把握し出来ることを考え工夫を重ね支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後は安全な暮らしの中で社会資源を活用し暮らしを楽しんでいけるよう努力したい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を入居時に聞きかかりつけ医との関係を断続して受診できるよう支援をしている	利用者はかかりつけ医に通っている。協力医の往診はないので家族に連れて行っていただくが、職員が連れて行くことも多い。歯科も通院している。受診記録はタブレットに記録して職員同士で情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護体制がなく日常の関わりの中で異常の早期発見に努め、医療に受診できるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院との情報交換に努め早期に退院できるよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の説明や状態にあわせてその都度家族と話し合いをし共有しながら支援していく	看取りは実施していない。以前は実施していたが、協力医が変わったこと、常勤の看護師がいなくなったことで実施できなくなった。重篤化した際には医療機関と連携している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の開催を重ね発生時に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練に職員も参加し身につけると共に協力体制を確認している	火災、水害、地震に対して年間に3～4回、毎回建物内他施設と合同で実施している。地域の避難場所にも指定されているため、コロナ以前は防災祭りを開催して地域住民にも来ていただいていたが、現在は中断している。備蓄は三日分程度あり、利用者に食べてもらったこともある。安芸市の災害訓練にも参加し、ダンボールベッドの組立も体験した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活を送る中でも、個人のプライバシーに配慮し尊厳を傷つけないように努めている	職員同士での排泄チェックの時には名前を出さなかったり、近くで話しかけたり、他の人に気付かれないように配慮している。失敗した時の誘導時にはその人の後ろに立ち、他の人に見えないようにしたり、着替えを持って行く時に目立たないようにしたりしている。呼称は同姓の人が多いので下の名前にさん付けが多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人にどちらが良いか伺ったり、迷っている場合にはアドバイスをしたり、なるべく自己決定できるように促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の過ごし方については、その時の体調や気分に応じてペースを変えている。業務の内容や職員の都合で内容が変更される場合がある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から服装や整容に気を配り過剰な重ね着がないかなど確認している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の筋取り、根切りなどの下ごしらえはしているが調理に携ることはできていない。夜勤明けの職員が朝食を摂っているが別々で食べている	節句や敬老の日や誕生日にはお寿司や赤飯を出して喜ばれている。またその写真を撮って、ホーム便りに載せて家族に送って、好評である。職員手作りの羊羹などのおやつも人気であった。おやつは個人からの差し入れもよくいただき、待ち遠しい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の管理は日常的に行っている。定期受診の検査結果等で主治医からの指摘、食事指導があれば実施している。日々のメニューを記載して食事内容やバランスを検討している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きが不十分な利用者の側で見守りを行い、自己で磨いてもらった後に仕上げ磨きをしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの定期誘導を行い個々の状態にあった排泄用品で対応している	排泄の失敗が増えて、受診や外出が難しかった利用者が、リハビリパンツなどの利用でスムーズに外出できるようになった。排泄チェックシートの活用により誘導のタイミングを把握でき、職員間でも共有できて、失敗させてしまうことが減った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や薬でコントロールしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の状態に合わせ声かけは行方が職員主体になっている	週に2回～3回、特に受診の前日には入浴するようにしている。本人の希望により毎日入る人もいる。浴槽に入らない人にはお湯をかけてあげる。嫌がる人もいるが、先に入った利用者に「気持ちよかった」「あなたの番よ」などと声をかけて頂くと入ってもらえるようになった。「ライスパワー」を使い保湿にも気をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動にも配慮しながら夜間は出来るだけ眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイル作成や毎日の薬管理の工夫にて対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのできる力を活かして家事仕事をしたり塗り絵やパズルをされている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在外出支援に関して出来ていないが家族の協力のもと受診時に外出をされている	コロナ過の間は外出ができなかったもので、駐車場の桜で花見を楽しんだ。バルコニーの庭で(で)蒸かし芋を食べ、ティータイムを楽しんだこともある。庭の花壇で草取りをしているので、次は何かきれいな花を(を)植えたいと考えている。外出が制限されていた間の運動に始めたオリジナルの体操が好評で続いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、現金を所持している利用者はいないがスキンケア用品などの要望があれば立替金購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っていて家人とのやり取りをしている人がいる。手紙のやり取りをされている方は現在はいないです		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節の飾りつけをしたり窓を開けたりエアコンを使用して温度に配慮している	リビングの壁に利用者(さんたち)と一緒に作った飾りを貼っている。職員と一緒に洗濯物を干したり、たたんだり、食器洗いを一緒にしたりしている。時には洗濯物の奪い合いもおきるほど皆さん積極的に手伝うことが多い。テレビも一緒に見ていて、相撲中継が人気で、場所中は夕食時間が取組後になるので、普段よりも遅く始まることになる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内に2台のソファを置き思い思いに座ってくつろげる空間作りをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族には自宅で愛用していた家具や使い慣れた馴染みの品物を持参してもらうようお願いしているが実際に愛用品を持ち込まれる家族は少ない	居室に使い慣れた机や椅子などを持ち込む人や、位牌と遺影を持ってきている人がいる。テレビを持ち込んでいる人も多いが、日中はリビングで一緒に見ている。夜にはテレビを寝るまでつけていて、職員が毎晩消しに行っている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりにくい場所には張り紙をしたり飾り物を置いています		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの			○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				